

お問い合わせ (内容について)

公益社団法人日本芸能実演家団体協議会
[芸団協(げいだんきょう)]
Tel: 03-5909-3060(平日10時~18時)
E-mail: okinawa@geidankyo.or.jp
http://www.geidankyo.or.jp/okinawa/

お申し込み

下記の申し込み用紙の必要事項をご明記の上、
Fax、Eメールのいずれかの方法でお申し込みください。

E-mail: okinawa@geidankyo.or.jp
Fax: 03-5909-3061

※すべての講座を受講される方を優先します。※複数人の場合は、申込用紙を複製して一人ずつお申込みください。メールで申込みの場合は、各人の担当職務、参加希望の講座番号がわかるように明記してください。※会場の都合上、申込み多数によりご希望に添えない場合はその旨ご連絡いたします。※当日は、写真撮影、録音、録画等を行います。※掲載した個人情報をもとに、氏名・所属先を明記した受講者リストを当日配布いたします。※掲載した個人情報は、「沖縄県アーツマネージャー育成事業」に関連するご案内等に使用いたします。



Fax: 03-5909-3061での申し込み用紙

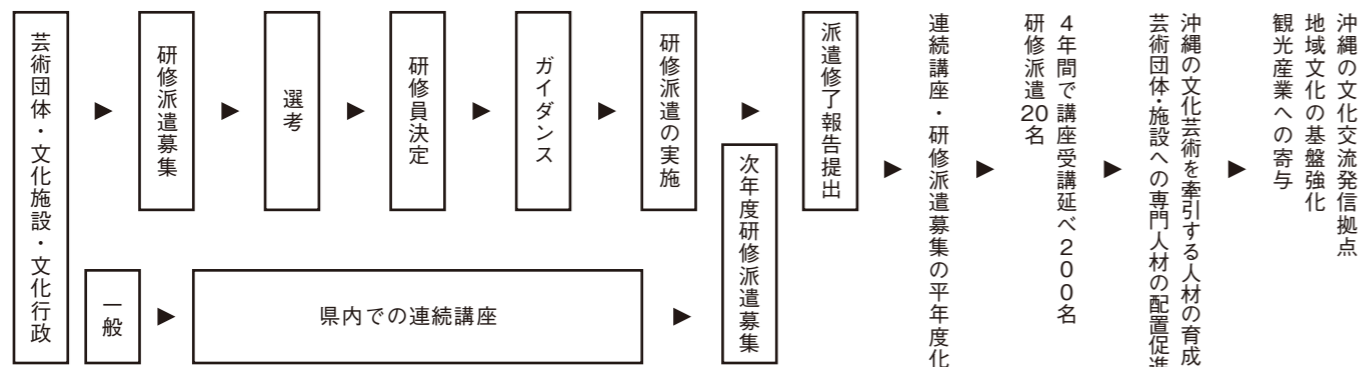
フリガナ 氏名	所属 (団体・館名)	
	担当職務	
住所		
Tel	Fax	
E-mail		
希望の回に ☑を してください	<input type="checkbox"/> すべて受講 <input type="checkbox"/> 講座1(5/11・12) <input type="checkbox"/> 講座2(5/18・19) <input type="checkbox"/> 講座3(5/25・26) <input type="checkbox"/> 講座4(6/1・2) <input type="checkbox"/> 講座5(6/8) <input type="checkbox"/> 講座6(6/15・16) <input type="checkbox"/> 講座7(6/27) <input type="checkbox"/> 講座8(6/29・30) <input type="checkbox"/> 講座9(7/7) <input type="checkbox"/> 講座10(7月下旬) <input type="checkbox"/> 特別講座(8/1)	

沖縄県 アーツマネージャー 育成事業

沖縄では、県内に存在する多様で豊かな文化資源を活用した文化芸術活動をさらに活発にし、文化産業を創出し、観光産業にも寄与することが課題となっています。この課題に対する施策のひとつとして、平成26年度より、県内の文化芸術活動を運営面から支える人材の育成に県事業として取り組んでいます。

この事業は、アーツマネジメントの基本的な考え方、事業企画から実施までの過程や要素を体系的に学ぶ「アーツマネジメント連続講座」と、県内外の文化施設や芸術団体等で実際の研修を行う「アーツマネジメント研修派遣」で構成されます。

これまでの取組や詳細は、本事業ウェブサイトをご覧ください。 <http://www.geidankyo.or.jp/okinawa/>



アーツマネジメント 連続講座 2015

ARTS MANAGEMENT SEMINAR 2015

2015年5月・7月

参加費無料(要申込み)

沖縄県産業支援センター (那覇市字小禄1831番地1)

主催: 沖縄県(アーツマネージャー育成事業)
事務局: 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会[芸団協]
協力: 公益財団法人沖縄県文化振興会/一般社団法人沖縄県芸能関連協議会[沖芸連]

沖縄の芸術を世界へ
世界の芸術を沖縄へ
文化芸術を通して、
人と人、地域をつなぐ

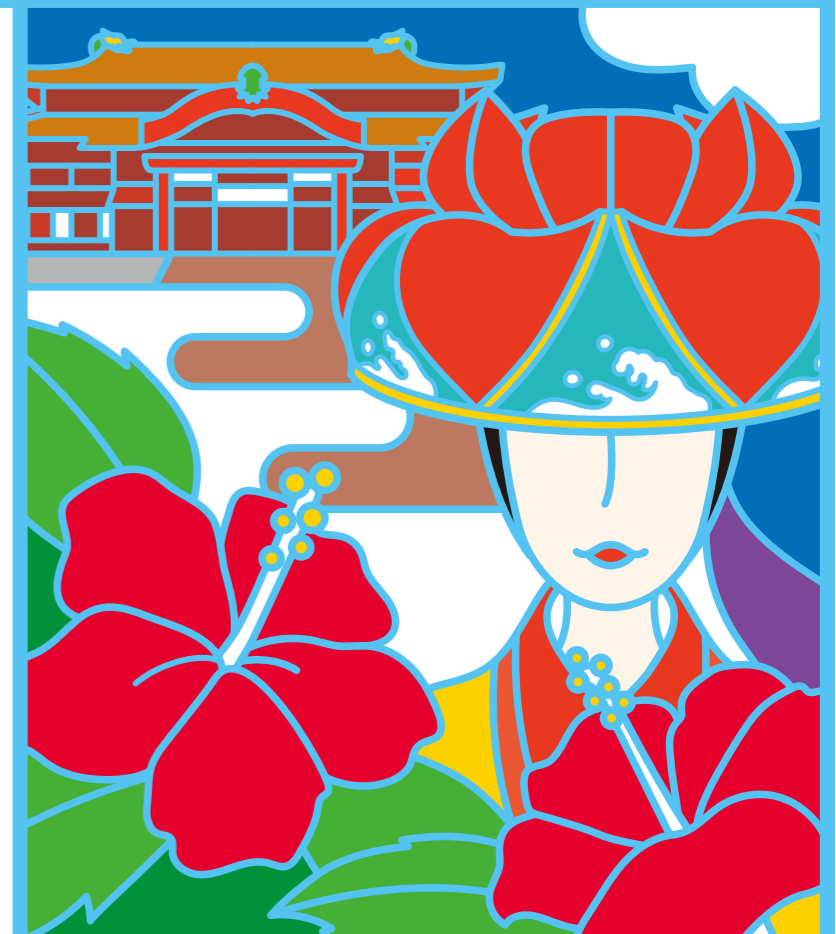
沖縄には、組踊、琉球舞踊、沖縄芝居といった固有の芸能や、音楽、演劇など、芸能があふれています。

これらの豊かな文化芸術を生かし、地域の活性化や観光資源としての活用を考えていくためには、文化活動を運営面から支える人材が必要不可欠です。

文化芸術団体、劇場やホール等の文化施設、文化行政等の実務者の方々、そしてこれから文化芸術活動に携わりたいと考えているの方々に向けて、「アーツマネジメント連続講座2015」を開催します。

沖縄の芸能の魅力を県外、そして世界へ発信していくこと。また、沖縄の人たちが多様な文化芸術に触れる機会をつくること。

沖縄における文化芸術活動の展開と一緒に考えましょう。



文化芸術の社会的な価値とは、なんでしょうか？ 連続講座の前半は、「文化芸術活動を展開する」をテーマに、文化芸術の社会的価値をどう考え、創造していくかを考えるところから始めます。そして、事業を企画すること、観客をつくるための仕掛けづくり、作品創作のプロセス、より多くの人々と価値を共有するための仕組みづくりなど、芸術作品が人々の目に触れるまでにどのような取組が行われるのか。具体的な実施例をもとに、様々な角度から考えます。

後半は、「文化芸術活動を継続的に実施する」をテーマに、事業を持続的に行うための体制づくり、年間計画と予算の考え方、会計の基礎、契約や実演家の権利、公演時の安全管理など、実際のな知識を身につけましょう。

また、沖縄芸能の魅力を再発見し、世界へ発信することも考える特別講座を実施します。

01 文化政策と芸術活動の経済的成立

文化芸術の社会的な価値と、経済的な特性を考えます。文化政策の在り方、国や民間による文化芸術への支援の根拠や考え方を学び、芸術活動の経済的な成立と資金調達について考えましょう。

【日時】 5月11日(月)・12日(火)
18:30-20:30

石田麻子(昭和音楽大学オペラ研究所教授／(独)日本芸術文化振興会プログラムオフィサー) 国内外の歌劇場や芸術祭の組織運営研究、およびオペラ公演開催からみた舞台芸術政策に関する研究活動を展開。『日本のオペラ年鑑』編集委員(文化庁委託)、共著に『クラシック・コンサート制作の基礎知識』(日本クラシック音楽事業協会)。東京藝術大学大学院修了。博士(学術)。

久野敦子((公財)セゾン文化財団プログラム・ディレクター) 多目的スペース「スタジオ200」の演劇・舞踊のプログラム・コーディネーターを経て、1992年に(財)セゾン文化財団に入団。1996年より現職。現代演劇、舞踊を対象分野にした助成プログラムの立案、運営のほか、自主製作事業の企画、運営を担当。舞台芸術のための新たなインフラ開発、才能発掘、育成に関する支援策を考えている。

02 事業企画をつくる

劇場や芸術団体はその組織理念に基づいて、多彩で多様な企画を打ち出し、文化芸術事業の展開を考えます。地域環境や特色をも作り出す、事業企画の考え方を学びます。

【日時】 5月18日(月)・19日(火)
18:30-20:30

織田紘二(国立劇場顧問) 卒業と同時に特殊法人国立劇場芸能部に入り、以来歌舞伎および新派の制作・演出にたずさわる。国立劇場以外での演劇・舞踊の作・演出も多い。1991年ジャパン・フェスティバル英国公演「葉武列土俵錦絵」の脚本・演出を担当。著書に「芸と人―戦後歌舞伎の名優たち―」(演劇出版社)、「歌舞伎・家・人・芸」(淡文社)、「新版歌祭文」(白水社)、「歌舞伎モノがたり」(淡文社)ほか。

能祖将夫(北九州芸術劇場プロデューサー) プロデューサー及び作・演出家として「合唱物語わたしの青い鳥」(北九州市)、「AIうた」(名護市)、「群読音楽劇 銀河鉄道の夜」(相模原市)、「神楽オペラSHINWA」(大分県豊後大野市)、「音楽物語わが街深川」(北海道深川市)等、全国で地域に立脚した作品創りを行っている。桜美林大学教授。詩集「曇りの日」(書肆山田)。「第4回びーぐるの新人」受賞。

03 観客をつくり出すー広報・宣伝

公演等の事業企画は、観客がいてこそ成立します。観客は、チラシ等を通した宣伝、様々なメディアを通しての広報、さらには日常的な口コミや、地域や社会との関係づくりの中で生まれます。観客をつくり出す、その視点を学びましょう。

【日時】 5月25日(月)・26日(火)
18:30-20:30

森岡めぐみ(いずみホール企画部課長) 1989年開館準備室に入りレセプション・マネージャー、営業、宣伝を経て広報、情報誌編集、調査を担当。『クラシック・コンサート制作の基礎知識』(日本クラシック音楽事業協会)の「広報・宣伝」を執筆。音楽芸術マネジメント学会、公文協、地域創造の研修会で講師を務めた。大阪日日新聞でコラム「ステージドア」を隔週連載中。

観世喜正(能楽師 観世流シテ方) 神楽坂の矢来能楽堂を本拠地に、全国各地で公演に出演するほか、能の普及事業・謡曲指導に務め、謡曲のCD化、能公演のDVD作成など能楽教材のソフト化にも積極的に取り組む。(公社)観世九阜会常務理事、(公社)能楽協会理事・渉外委員長、法政大学、皇學館大学非常勤講師。著書「演目別に見る能装束1」演目別に見る能装束2」(淡文社)。

04 公演を制作するー企画実現へのプロセス

企画を実現するためのプロセスを学びます。予算組み、創作におけるチームの編成とデザイン、プランニング、キャスティング、スタッフ編成、稽古、劇場入りと仕込み、公演、撤収まで、公演制作の基本と役割を学びましょう。

【日時】 6月1日(月)・2日(火)
18:30-20:30

堀内真人(KAAT神奈川芸術劇場技術監督) 舞台監督、演出助手を経て、2003年文化庁在外研修員としてパリ及びロンドンに滞在。プロダクションマネージャー、技術監督として、多くの国内外の演劇およびダンス公演に関わる。2008年より神奈川芸術劇場開設準備に携わり、2010年4月より現職。

乾 美宇((株)株式会社ジャパン・アーツ海外事業部部长) 東京藝術大学楽理科卒業。学生時代にオペラ制作を体験したのを機に、音楽業界に興味を持ち、在学中から卒業後にかけて舞台招聘企画の制作助手アルバイトで現場経験を積む。現在は海外招聘の企画プランニングを担当するほか、国内外のアーティストマネジメントにも関わる。

05 芸術団体、劇場等とのネットワークづくり

企画立案、制作、観客づくり等、事業を進めるなかで重要となる要素は、芸術団体や文化施設等の関係者間の人的つながりです。共同制作、巡回公演等、事業の連携を図り、展開していくための視点を学び、地域を超えたネットワークづくりを考えましょう。

【日時】 6月8日(月) 18:30-20:30

中村よしき(東京芸術劇場 音楽企画制作) 一般企業を経て東京都歴史文化財団へ入社。2002年から東京文化会館で様々なコンサートの企画立案、プロデュースを行う。現在、東京芸術劇場勤務。読売日響との事業提携、オペラ制作を開始させると共に様々な公演を多数プロデュース。全国10都市13公演の大規模で行う、共同制作オペラ「フィガロの結婚」の共同制作プロデューサーを務めている。

安田 江(兵庫県立芸術文化センター事業部プロデューサー)2004年8月から(財)兵庫県芸術文化協会に勤務。翌年10月オープン of 兵庫県立芸術文化センターの開館準備業務に携わる。開館以来一貫し、同センターの広報・営業・スポンサー対応・チケットिंगに従事。2011年4月より現職。劇場間での連携事業にも多くの実績を残す。2014年に発足した「劇場、音楽堂等連絡協議会」の事務局にも名を連ねる。

06 芸術組織の役割、事業計画と予算

実演芸術の豊かな享受機会を作り出すために、役割の異なる芸術組織が多様に存在します。法人格による違い、定款と意思決定等の組織成立の基本等の知識と、組織理念、長期方針と年間計画の作成、着実な予算編成が重要です。持続的な芸術活動のための体制づくりを考えましょう。

【日時】 6月15日(月)・16日(火)
18:30-20:30

07 会計の基礎

収入不足は、組織の存続の危機に直面します。芸術活動においても、日々の会計処理を的確に実施し、財政を正確に把握することが重要です。会計の基礎を身につけましょう。

【日時】 6月27日(土) 13:30-17:45

田坂 公(久留米大学商学部教授) 中央大学商学部卒業後、博士号取得。専門は会計学。2011年より現職。現在、公認会計士試験委員(管理会計論)、資格の学校TAC等で簿記講座、公認会計士講座の講師を歴任。『資格試験の神サマ』(1997年 講談社)、「日本紳士録」(2002年 交詢社)に掲載される。「会計を通じて人を幸せにする」をモットーに、全国で出前講義を行う。

08 芸術活動と法務ー契約と著作権、公演をめぐる法律

公演等の実施には、出演交渉を始めとする様々な取引や契約が発生します。また自身の創造を護り、他人の創造を侵害しないために、契約と著作権の基礎、実演家の権利、公演等に関わる法律を学びましょう。

【日時】 6月29日(月)・30日(火)
18:30-20:30

桑野雄一郎(骨董通り法律事務所 弁護士／島根大学法科大学院教授) 早稲田大学法学部卒業、1993年弁護士登録。2003年に骨董通り法律事務所設立。2003年より東京藝術大学・同大学院講師。主要著書に「著作権法コンメンタール」(レクスネクシス・ジャパン[共著])、「出版・マンガビジネスの著作権」((社)著作権情報センター)、「舞台芸術と法律ハンドブック」(芸団協出版部[編著])。

増山 周((公社)日本芸能実演家団体協議会事務局長) 京都大学と筑波大学大学院にて経済学及び法学を学び、法学修士。東アジア諸国の著作権法制、や実演家の保護、民間伝承の保護等について研究。国際著作権法学会ALAI(Association Littéraire et Artistique Internationale)日本支部理事。

09 公演の安全管理ー劇場と技術

公演時には、事故を起こし得る危険が多く潜んでいます。出演者、スタッフ、観客、すべての人の安全のために、舞台機構、照明、音響の基本と安全な運用について学び、公演における安全管理について考えましょう。

【日時】 7月7日(火) 13:00-17:00
【会場】 国立劇場おきなわ 大劇場

伊藤久幸(新国立劇場技術部長) 1978年、(株)歌舞伎座内長谷川大道員に入社。退社以降はフリーの舞台監督として、セゾン劇場のピーター・ブルック演出作品、仲代達矢主宰の無名塾公演等の舞台の他、幕張メッセのオープニングセレモニー進行等を担当。1994年新国立劇場運営財団に入職し、新国立劇場の技術部として活動。2007年より現職。

岩品武顕((公財)埼玉県芸術文化振興財団 劇場部制作技術課長) 1982年(有)季節射にて舞台照明の仕事を始め、(株)東京舞台照明、フリーでの活動を経て1994年より(公財)埼玉県芸術文化振興財団に所属し、主に演劇、オペラ、舞踊作品等の照明デザインを担当している。(公社)日本照明家協会新人賞(平成9年度)、同優秀賞(平成25年度)を受賞

押谷征仁((公財)びわ湖ホール 舞台技術部課長) (株)大阪共立勤務を経て現在に至る。開館当初からびわ湖ホールの財団職員として勤務し、主としてオペラや、バレエ・ダンス等の音響デザインを手がける傍ら、舞台監督・技術監督としても活躍しており、劇場音響コンサルタント等も手がける。02年、文化庁芸術家在外研修員(ニューヨーク)。

10 国際展開を計画・実施する

【日時】 7月31日(金) 19:00-21:00
【講師】 下山雅也(国際交流基金アジアセンター部長)

会場は決まり次第お知らせします(那覇市内予定)

特別講座

沖縄芸能史を学ぶ

【日時】 8月1日(土) 13:00-16:10

【講師】 大城 學(琉球大学教授)

久万田晋(沖縄県立芸術大学教授)

会場は決まり次第お知らせします(那覇市内予定)